

右の如き結果として進捗を要す

六、部令的合司を見合わせ、各党共同斗争委員会を通じて日常果敢の共同戦線網を張り而して全合同への道程たらしむる意志たよりや、
答、全合同完成の爲には其の拍車として全合同の觀上共た立つて可能な範圍の合同の具体化こそ現下の情勢に於いて取らねばならぬ緊急の方法であると信ずる尙当面の問題に對して共同斗争を展開する事は当然である。

七、党首高野岩三郎博士云々の新聞報道に關して眞疑を明たされたい。尙全博士党首推薦は本部の意志なるや否や。

答、高野博士云々は日労党結成当時も七党合同当時も共に等しく問題となりたることあるも現在未だ何等問題となつてゐない。右の如く回答申し上げます。

昭和五年五月十六日

本部常任執行委員会

東京府联合会常任執行委員会

印中